

保育エピソード	2歳児	記録者
---------	-----	-----

1月7日 「しずく? わ! 冷たっ!」

教育・保育課程 (一部抜粋)

2歳Ⅳ期 ○イメージや感覚を豊かに、興味関心をもって遊ぶ。

1月 第2週 ○友達や保育教諭と一緒にイメージを豊かにし、表現して遊ぶことを楽しむ。
・季節の事象に関心を持ち、共通のイメージで友達と一緒に遊ぶ楽しさを味わう。

雨上りの園庭に出ようと、玄関前に集まっている。

保育教諭 これ何かね?

多 A 水?
B 知っとる! しずくよ!

保育教諭 ヘえ、しずくって言うんじゃ~

A しずく? (指で触ってみる) わ! 冷たっ!

それを聞いて、周囲にいた園児も触りはじめる

C ほんまじゃ! 冷た~! わあ、びちゃんって言うた。

D ばちゃんって聞こえたね。

A びちびちしとる

それぞれが「しずく」を探し始める。

鉄棒・ブランコ・ベンチなどについている雫を見つけて知らせ合う。

A 見て~! ここにもある! 木についとるよ!

(枝を引っ張る手が離れて雫が散る)

A わあ~! びよ~んってなった!

いっばい落ちてきた~! 冷た~い!

C どうやったん?

A こうやって、びよ~んってしたんよ。やってみ?

C びよ~ん... わあ! おもしろいねえ!

E あったよ~! (水溜りを指さす)

D わあ、いっばいじゃ~!

A ちよんってしてみる? (みんな触り始める) 冷たいね。

E うん、冷たいねえ。

後日...

F しずく集めたんよ。

保育教諭 え? どこにあったん?

F ん? 棒のとことか、鉄棒とか椅子とか草とか木とか...

G 雨が空からおちて、

オンちゃんのここ(上)の鉄棒んとこについたんよ~。

A 触ったら、びるびるってなるんよ。冷たいよ~。

保育教諭 どうやって集めたん?

F こうやって(人差し指を立てる) ゆっくり!

そーっとよ! そしたらここ(指)につくんよ。

保育教諭 おもしろそう! 今日も行ってみる?

F 今日はないと思うよ。

保育教諭 なんで?

F ん? 雨 降ってなかったけえ。

その後も天気を感じしながら、雨なら傘をさして出る? 長靴あるよ! と、

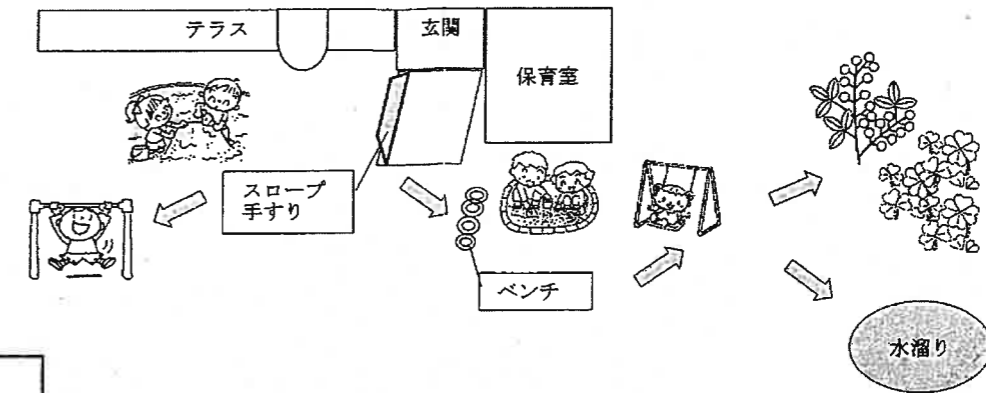
どうやって遊ぼうか考え保育教諭に伝えに来ている。

<活動を振り返って>
一年を通して地域散策に出かけたり自然と触れ合ったりする中で、気づき考え学んだ経験から、様々なことに興味関心を持つようになり、深く関わって遊ぶ姿が増えてきた。雨上りに見たことはあったが、それが「しずく」という名前だと知り、親近感を持ち積極的に「しずく」を探したり触ったりする姿が見られた。
夏の水溜りや水遊びでは、全身を使って水の気持ち良さや不思議さを感じていたが、冬ならではの雫や水溜りの冷たさを感じたり、雫のままの形で手に取るにはどうしたらよいか考えたりしていることが分かる。見たり触ったりしたことを、びちゃん・ばちゃん・びちびちと言葉で表現し、その感覚を友達にも分かるように伝えようとしている。もっと面白いものはないかというように、それぞれが探し始めた様子からも、近くで探す・同じような棒状の所を探す・ここはどうだろう? ここにあるんじゃないかな? と考えて探すなど、今までの経験を活かし予測を立てていることが分かる。自分が知っていることや気付いたことを言葉で伝え共有し、友達と一緒に考えて試していく姿は、探求心へと繋がっていく。

保育教諭自身がイメージを豊かにし、子どもの興味を引くであろう環境構成を考えていった。日頃の何気ない会話や様々な場面を捉えて同じ場所に行くことで、少しのきっかけ作りをすることとなり、季節の移り変わりを感じたり、天気や水の冷たさの変化にも気付いたりすることができた。その気づきや考えを友達と共有し友達と心を通わせて、その後の遊びや学びに繋がっていることが分かった。



【環境構成】
《園庭》



園内カンファレンス

感じる・気付く力

- ・雨上がりの園庭で遊ぶという保育環境から遊具・樹木について興味を持ち触る。
- ・雫のある場所を探したり、知らせ合ったりしている。
- ・木に付いている雫を落として遊んでいる。
- ・冷たさを感じたり落ちる音を聞いたりしている。
- ・雨上がり(天気)を気にしている。
- ・雫を触って見た子の言葉や様子で心が動き興味を持ち探し始める。
- ・雫に触れて冷たさに気付く。
- ・雫に興味を持ち、どこにあるかじっくりと周りの環境を見て探す。
- ・雫の形をじっくり見る。
- ・「しずく」という言葉を知り、直接触ってみることで冷たさや、びちゃん・ばちゃんとした感覚に気付く。

考える力

- ・友達の言葉を聞いて自分も触ってみる。
- ・雨が空から落ちて雨上がりに雫になることを知り、水溜りから雫を集めようとする。
- ・今日は無いと思うよ雨がふってないけえ...経験をもとに予想している。
- ・人差し指を立ててそーっとすると指につく。やってみるとできた。
- ・どこに雫があるかと考える。
- ・びよーんと伸びることや触ると落ちることを期待してやってみる。
- ・雨が降ると雫ができると考え、天気を気にしたり傘や長靴を使えば雨でも雫を探しに行けるのではないかと考えている。

うごく力

- ・ちょっと小さな雫に指先で触る。手のひらでない細かな動きが適切であることを知る。
- ・園庭を歩き回って雫を探す。
- ・指先の力をコントロールしながら雫を触り感触を楽しむ。
- ・手や指で手すりや木・水溜りの水を触って冷たさを感じたり集めたりしている。
- ・枝を引っ張って雫を散らしている。

人とかわる力

- ・友達と園内あちこちの雫を見つけて知らせあう。
- ・様々な楽しい知っている限りの言葉で表現し伝え、共有している。
- ・発見や喜び、雫が落ちていく音を言葉で伝える。
- ・友達に思いを伝え、喜びを共有している。
- ・雫に触れた感触をそれぞれ「びちゃん」「ばちゃん」「びちびち」と表現しながら、友達と発見したことを共有している。
- ・「しずく」という言葉を教えている。
- ・「ここにもある」「やってみ」など友達を誘う会話がある。
- ・雫の冷たさを知らせ、共感している。

やりぬく力

- ・いろいろな雫を触ったり、探したり落としたりしてみる。
- ・引っ張ると木に付いた雫が飛び散ることに、びよーんと楽しさを感じている。
- ・繰り返し雫の感触を楽しむ。
- ・鉄棒・ブランコ・ベンチなどに雫があるのを見つけ、友達や保育教諭に知らせることで満足している。
- ・みんなで雫を集めた楽しさから、後日自ら雫を集めに行く。

気付いたこと

- ・日頃の何気ない会話や、様々な場面を活かすことがきっかけとなり、言葉を育む環境(教材)となって学びに繋がっている。
- ・冬の雫の冷たさも実際に触り、感じたことを言葉にしている。このような日々の積み重ねが大切である。

今後に向けて(環境構成・援助)

- ・1年間を通して子ども達が得た興味関心からの深い学びや、子ども同士の関わりの広がりを大切に、今後も子どもの興味関心から遊びや学びの連続性を考えながら、遊びの種をまいていく。
- ・保育教諭自身が環境であることを意識し、豊かな感性を持ち情報収集をしながら、子どもと一緒に考えたり瞬時に適切な環境構成をしたりする。